

シルバー ながの

第36号
2016.9月発行
SILVER
NAGANO

公益社団法人
長野県シルバー人材センター連合会
〒380-0841 長野市大門町51番地1
TEL 026-237-4680 FAX 026-237-5665



文化薫るアルプスの城下町

国宝松本城太鼓まつり

松本城は、戦国時代の永正年間に造られた深志城が始まりで、現存する五重六階の天守の中では、日本最古の国宝の城です。四百有余年の風雪に耐え、戦国時代の優れた建築技術を今に伝えていきます。また、黒と白のコントラストがアルプスの山々に映えて見事な景観を作り出しています。

松本城では、年間を通して様々な行事が行われ、毎年七月末には「国宝松本城太鼓まつり」が開催されます。

今年は、第二十九回を迎え、七月三十日、三十一日に、全国各地から集まった二十二組の太鼓団体が参加し、松本城本丸庭園メインステージの他、松本駅前広場、松本城大手門枡形跡広場で演奏が繰り広げられました。折しも、信州ゆかりの大河ドラマ「真田丸」の放送が行われており、お城やその造られた時代への関心が高まっており、多くの観客が太鼓まつりを訪れました。

天守をバックにして、本丸庭園メインステージで行われた演奏は、演奏者のほとぼしる迫力と音量に圧倒される、たいへん素晴らしかったです。

写真提供 松本市観光温泉課

電話 〇二六三・三四・八三〇七

平成28年度 定時総会開催

平成27年度事業報告及び 収支決算承認される

6月3日(金)、長野市のホテルメトロポリタン長野において、平成28年度定時総会が開催されました。

中島忠徳連合会会長の挨拶の後、来賓として、長野労働局職業安定部長(代理・柳沢幸職業対策課長)、長野県産業労働部長(代理・坂口秀嗣雇用・就業支援担当部長)よりご祝辞をいただきました。

また、議長には、(公社)更埴地域シルバー人材センターの関口理事長が選出され、まず理事会の議決事項である平成27年度収支補正予算及び平成28年度事業計画・事業予算が報告され、続いて、連合会の定款の一部改正について審議、その後平成27年度事業報告及び収支決算について、また、役員を選任について熱心な審議をいただきました。

総会の席上、長年、拠点シルバー人材センターの理事長、また事務局長としてご尽力いただいた各氏に中島連合会会長からそれぞれ表彰状が授与されました。

平成28年度 事業計画の主なもの

①新公益法人運営事業

連合会並びに21拠点センターは、公益社団法人として、その運営に当たっては、公益的な活動はもちろんのこと、法人の



▲ 中島会長挨拶

ガバナンス、コンプライアンス体制、情報公開と情報管理体制の整備・充実など、公益性が認定された法人に相応しい法人運営が求められている。

このため組織運営や会計を始めとする事務処理など、あらゆる面においてスムーズな運営ができるよう、拠点センターの事務・事業をサポートしていく。

②安全・適正就業推進事業

○安全就業

「安全・安心なシルバー事業」を展開することは、シルバー事業遂行の基幹をなすものであり、重篤事故、賠償事故を始め、あらゆる事故の撲滅を目指し、引続き、平成28年度の重点目標を「危険ゼロ」とし、取組み目標を①安全ミーティングの完全実施②安全装備使用の徹底③健康診断受診及び健康体操の奨励④交通事故防止と定め、会員の安全意識の向上、事故防止策の徹底など組織を挙げて安全対策を推進する。

○適正就業

法令遵守の徹底を図り、「適正な受託

と就業のための自己点検表」などの活用による自主点検及び現地調査を奨励し、発注者からの指揮命令が疑われる業務等、雇用と受け取られかねない就業については、事業の確保にも配慮しながら、シルバー派遣事業への切替や職業紹介事業による是正を進める。

③就業開拓等事業

多様化する地域ニーズや会員の就業ニーズに対応するため、新たな就業分野の開拓、拡大、独自事業の開拓等に係る情報の収集・提供、助言等を行う。また、高齢者活用・現役世代雇用サポート事業や平成28年度に創設された地域就業機会創出・拡大事業を活用しながら新たな就業分野の開拓・拡大、就業機会の創出を進めるセンターの取組みを支援する。

④地域就業機会創出・拡大事業

高齢者に、より多様な就業機会を提供できるようにするため、センターと自治体や商工団体等が連携して、地域企業の雇用問題の解決、地域企業の活性化、地域社会・経済の維持・発展等につながる事業を立上げ、高齢者の新たな就業

機会を創造する取組みを支援する。

⑤労働者派遣事業

高齢者の多様な就業ニーズに対応した指揮命令のある職種での就業機会の確保と受託事業の適正な就業を確保するため、各事業所と連携を密にして派遣事業を推進する。

⑥高齢者活用・現役世代雇用サポート事業

就業機会の拡大、会員の拡大及び高齢者の多様な就業ニーズに対応するため、センターが高齢者に人材不足分野や介護、育児分野等の現役世代を支える分野で、発注者・会員の開拓、仕事のマッチング等を行い、就業機会を提供する取組みを支援する。

⑦シニアワークプログラム地域事業

55歳以上の就職を希望する高齢者を対象に、主に短時間雇用を前提とした技能講習を実施し、雇用機会確保・就職支援員の配置等、雇用に繋げる一貫した就職支援により、高齢求職者の雇用機会の拡大を図る。

⑧高齢者活躍人材育成事業

サービス業等の人手不足分野や介護、育児等の現役世代を支える分野での担い手を確保するため、地域の60歳以上の高齢者を対象として、当該分野での就業(派遣・請負・職業紹介等)に必要な技能講習を実施し、就業機会の拡大を図る。

新連合会長に酒井氏

去る6月3日の総会において、平成25年度から連合会会長を務めてこられた中島忠徳氏から酒井登氏(長野シルバー人材センター理事長)にバトタッチされました。



▲ 表彰者の皆さん

連合会新旧会長挨拶

◆◆◆◆◆ 会長就任あいさつ ◆◆◆◆◆

この度、本連合会の定時総会におきまして、役員に選任され、理事会にて会長に選定いただきました酒井登です。会長就任に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

もとより県シルバー人材センター連合会は、県知事認可により設立された公益社団法人として、県内 21 シルバー人材センターが会員となり構成され、各センターによるシルバー事業の拡充や発展のため諸事業に取り組んでおります。



新会長
酒井 登氏

本年は、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」によりシルバー人材センター事業が法制化され、30 年を迎える節目の年であります。

この間、我が国においては少子・高齢化が進展し、本県においても超高齢社会を迎えております。

このため、社会の労働力の中核を担う生産年齢人口は大幅な減少が見込まれ、一方では意欲や能力のある高年齢者が、その持てる知識と経験を活かして「生涯現役」として活躍することが期待され、また緊要となっております。

その重要な担い手である高年齢者のため、シルバー人材センターの果たす役割は、益々増大をしております。

従来から本連合会は、高年齢者の就業や社会参加への意欲醸成や地域社会の期待に応えられるよう、国や地元自治体等の助言や援助を受けながら、県内の各拠点シルバー人材センターと連携して諸事業を実施して参りました。

現在なお、私達を取り巻く状況には厳しいものがありますが、ときには原点に戻り将来を見据え、シルバー事業への理解や入会促進など会員の増強を図り、就業機会の創出等に向け、事業の拡大発展に尽力して参りたいと思います。

皆様のより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆◆◆◆◆ 会長退任にあたって ◆◆◆◆◆

去る6月3日の定時総会で、連合会会長を退任いたしました。この間、連合会並びに県下21センターの役職員の皆様方のご指導、ご支援をいただき退任できましたことに、心から感謝と御礼を申し上げます。

シルバー人材センターを取り巻く環境が厳しい中で、私はこの3年間、会長として何をなすべきかと思ひ、職務に向き合ってきました。

特に大切なこととして、各センターにおける情報の収集と共有化の実現について取り組んでまいりました。

また、国等における補助金制度の変化で、補助対象が管理費から事業費にシフトされたため、「労働者派遣事業」に積極的に取り組み、各センターのご尽力により、初年度としては大きな成果を収めることができました。

今後におけるシルバー人材センターを取り巻く環境は、会員獲得や就業開拓の面等厳しいものがあるかと思いますが、更なる発展をご期待いたします。

結びに、長野県連合会並びに21センターの益々のご発展と、関係の皆様方のご健勝を祈念し退任の挨拶といたします。



前会長
中島 忠徳氏

連合会表彰受賞者

連合会役員・センター理事長表彰

・小林 勝人氏

（連合会前理事 佐久前理事長）

・中島 忠徳氏

（連合会前会長）

・田部 力雄氏

（塩尻地域前理事長）

事務局長表彰

・土屋 雅廣氏

（小諸北佐久前事務局長）

・熊谷 勝治氏

（阿南広域前事務局長）

新役員に大井理事(佐久)が就任

連合会理事の小林勝人氏が、一身上の都合により辞任され、後任として、佐久シルバー人材センターの大井伯一氏が就任されました。

センター新任理事長・事務局長

新任理事長 4氏

・酒井 登氏（長野）

・清水 倫成氏（塩尻地域）

・大井 伯一氏（佐久）

・川本嘉瑞義氏（北アルプス広域）

新任事務局長 8氏

・原 敬治氏（長野）

・荒川 幸正氏（更埴地域）

・細谷 渡氏（佐久）

・関 恵滋氏（上田地域）

・佐藤 茂雄氏（小諸北佐久）

・古平 幸正氏（須高広域）

・有賀 朝一氏（安曇野）

・松澤 幸永氏（阿南広域）



シニアワークプログラム 地域事業受講生の声

配食・配達・接客・サービス講習 を受講して 中田 田鶴子

6日間の講習日程を無事終了して、今充実感に満たされています。
有意義な勉強をさせて頂いてありがとうございます。
ありがとうございました。

「ホスピタリティー」想像力と行動力」の講義は、毎日の生活にも応用できる大切なことを学ぶことができました。またセブインレブン様のお客さんに対するサービスがとても深いものだと感じて、改めて今度お店に行った時は、今までと違った思いで買物ができるようになれると思います。
実習では、訪問した施設の認知症の方への優しい思いやり、地域への関わり方、その理念に頭が下がる思いでいっぱいです。これからの世の中、こんな取り組みの施設があったら安心します。思いやりと優



▲ 配食・配達・接客・サービス講習

しさに溢れています。心より応援したいと思えました。

私は、年齢的にはもう雇用されたいかもしれませんが、まだまだ働きたい意欲があります。働くことで健康と生きがいが増えたいです。諦めずに挑戦して少しでも世の中のためになれたら嬉しいです。

また、この様な企画を作っていただき一人でも多くの人が働くことの喜びを感じてもらえるようにしていただけたらどんなに嬉しいでしょう。
お世話になりました。ありがとうございます。

富士見の花栽培アシスタント講習に参加して 国枝 徳二

昨年、申込日を過ぎてしまい参加できなかったのですが、今年には是非参加しようという意気込みで申し込みました。

今年まで、色々な仕事をしてきましたが、近年は年齢のこと、諏訪の業況等を考慮し、今後は農業のかなと興味を持ち、花栽培アシスタント講習に参加しました。

諏訪地方の菊、カーネーション栽培の概要を聞き、生産者様の圃場にて、芽整理、芽掻き作業の実務作業を実体験させて頂きました。慣れない姿勢での作業で大変ではありましたが、生産者の方々のご苦労を体感でき、手間を掛けて成長させ、開花して出荷までの大切さ、大変さを改めて感じる事が出来ました。

また、鉢花においては、菊、カーネーションとは作業内容が多少異なるとはいえ、多種多様な花の種まき、また差芽から出荷までタイミングの難しさ等を感じ良い経験が出来ました。



▲ 富士見の花栽培アシスタント講習

自然が相手の作業なので、日照時間、温度管理等、今まで体験したことのない大変さも感じる事が出来ました。

今後は、この講習を活かし花栽培の仕事のお手伝いをさせて頂けるよう精一杯励むつもりです。

今回、花栽培アシスタント講習に参加させて頂き有難うございました。

調理アシスタント講習に参加して 清水 礼子

ある日、偶然目に留まった新聞広告。新しい仕事をと考えていた時だったので、「まず、一歩踏み出してみよう。」という気持ちから、この講座に参加しました。

この7日間、自分が学生時代に戻ったようで、毎日楽しく過ごすことができました。講師の先生方がとても熱心に教えてください、内容も分かり易く、興味をもつて聴講することができました。

また、午後の調理実習は、減塩食、介護食分野に分かれた食事作りで、これから自分自身の食生活に役立つものが多く、

ありがたかったです。特に減塩食では、調味料にポン酢を使うなど参考になりました。この実習を通し、班の皆さんと親しくなれ良かったと思います。

「食」に興味があり、それが仕事につながればと思っていたのですが、職業となる「人の命を預かっている。」という大きな責任があることを痛感しました。そのためにも、衛生管理が如何に大切か改めて考えさせられました。

また、当然なことかもしれませんが、食べてくださる方が「美味しい」と言ってくくださる方が「美味しい」と言ってくくださるよう心をこめて食事を提供していくことの大切さを、講師の先生方から学ばせていただきました。

この講座で学んだことが、就職先で活かされたいと思います。今回一緒に参加された皆さんは、何事にも熱心で大きなパワーをもらいました。自分を見直す良い機会にもなり、感謝しています。ありがとうございます。

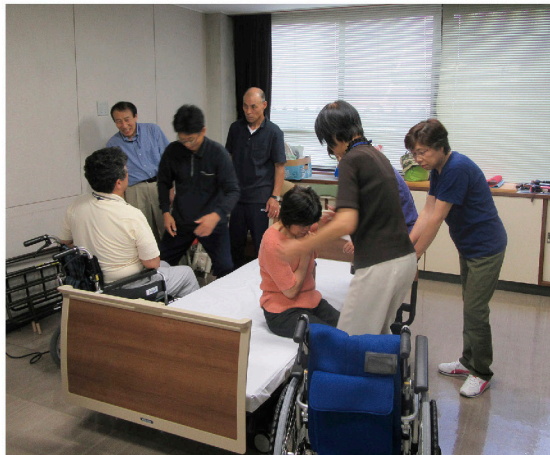


▲ 調理アシスタント講習

介護補助スタッフ講習を 終えて 藤原 尊雄

私は今まで介護業務に触れる機会が全く無くて、今日まで過ごして来ましたが。今回の講習で、「介護を要する者の尊厳を保持し、有する能力に応じ、自立した日常を営むことが出来るよう、必要なサービスを行う。」という、人権尊重の崇高な理念を持った介護保険法第1条を初めて学びました。

高齢になれば、誰でも介護を受ける側になることが予想され、今後も介護サービスのマンパワーが一層必要となると思いますが。「支障が出ているところにサポートに入るのが介護の仕事。」ということを確認しました。しかし、いざその現場に立つ時、一人ひとりの状況が異なり、人格を持つ方の心に寄り添ったサポートが十分に出来るかという不安があります。やはり、介護の仕事は大変なことだというのが率直な実感です。



▲介護補助スタッフ講習

講師の皆様は、明く生き生きとした態度は、何に基づいているのか正直知りたいところですが、「暗い」「キツイ」「汚い」というイメージで捉えられている介護業務だと思いますが、自立を目指す人のサポートを行う中で、日々に喜びや、やりがいがあるのではないかと思います。私もその一員になることが出来たらまた、新たな生き方が見えてくるような気がします。

今回の講習は、大変有意義でした。ご用意いただきましたスタッフの皆様、講師の皆様方に心から感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

伊那広域シルバー人材センターが、 安全就業優良センター賞を受賞

平成28年6月23日に開催された全国シルバー人材センター事業協会の平成28年度定時総会において、安全就業優秀・優良シルバー人材センター等の表彰が行われ、長野県関係では、伊那広域シルバー人材センターが、優良センター賞を受賞しました。当日は、伊藤理事長に全シ協の前田会長から表彰状が授与されました。

安全就業の表彰は、全国で優秀賞が3センター、優良賞は17センターで、北信越管内からは唯一の受賞でした。

安全就業優良センターの選定基準は、①安全委員会を年3回以上開催。②安全パトロールは、年4回以上定期的に実施。③就業途上事故以外の事故による死亡事故、重篤事故の発生が過去3年間ゼロ。④延べ百万時間当たりの労働災害による死傷者数を算出した「度数率」が過去3年間30以下。⑤会員の就業率が県内の平均以上で



▲表彰を受ける伊那広域 伊藤理事長

あることなどで、これらの項目をクリアしないと連合会が推薦できないこととなっています。

安全・適正就業パトロール 小諸北佐久SCなど10か所で実施

本年度の安全・適正就業パトロールは、7月14日の小諸北佐久シルバー人材センターを皮切りに、県内10箇所のセンターについて実施しました。

パトロール実施場所

小諸北佐久、茅野広域、飯山地域、飯田広域、佐久、安曇野、諏訪市、北アルプス広域、中野広域、岡谷下諏訪広域の各センター。(実施順)

このパトロールは、連合会から安全・適正就業対策推進委員、同パトロール指導員等、また、センターからは安全委員会正副委員長さん等の参加により、庭木剪定や草刈り等の作業現場において、会員の作業状況を点検しました。

これらの現場は、一つ間違えると重篤事故になりかねない事故が毎年報告されている他、損害賠償事故も多く発生しています。このため、作業に当たっては、動きやすく作業に適した作業着や安全靴にヘルメットの着用、安全带等の保護具の使用など基本的な安全対策を遵守していくことが必要です。

パトロールにおける主な要改善事項

- 草刈作業
 - ・道路や歩道に面する作業場所での「作業中」看板等の未設置(3SC)
 - ・刈払い機の防護カバーの未着装(1SC)、防塵メガネの未着用(1SC)
 - 庭木剪定作業
 - ・三脚の開き止め不使用(1SC)、脚立・梯子の固定が不十分(2SC)
- 等、改善を要する現場が多くありました。作業に当たっては、「安全」という言葉をいつも頭において、会員自身の安全意識の高揚に努めたいものです。



▲剪定作業現場

公益社団法人
小諸北佐久シルバー
人材センター

シルバーだより



KOMORO



▲市重要無形文化財 健速神社祇園祭

〒384-0027
小諸市六供二丁目2番5号
TEL 0267-24-0333
FAX 0267-24-0633

- ・理事長 吉澤 忠幸
- ・専務理事 佐藤 茂雄
- ・事務局長
- ・法人設立 昭和63年7月26日
- ・構成市町 小諸市・御代田町・軽井沢町・立科町
- ・会員数 721名(平成28年3月末現在)
- ・契約金額 448,231千円(平成27年度実績)

地域の概要

当センターは長野県の東部に位置し、北には活火山浅間山が南には八ヶ岳や蓼科山が連なり、遠く西にアルプスの山並みが望める風光明媚な地域であります。

管内は1市3町で構成されており、小諸市・軽井沢町・御代田町・立科町に本所、支所が設けられています。

この地域は中山道の宿場町跡で追分宿・小田井宿・菅田宿などの雰囲気の良い場所が今でも保存されています。小諸宿は北国街道となりますが、大手門・三の門・本陣など保存整備がなされています。

各市町の紹介

折角なので各市町の特徴を紹介します。小諸市は新幹線の駅から外れ寂れてしまっただと思う市民も多いと言われていますが、小諸城跡懐古園・高山植物の宝庫高峰高原・牛に引かれて善光寺詣の布引観音などの観光地は昔のままで良い雰囲気を出しています。

軽井沢町は、保養とゴルフ場で有名でしたが、今ではアウトレットで国道が渋滞し、コンビニは夜11時で閉店するなど、住民には不便が増したかに思われますが、群馬県との県境に建つ熊野皇大神社・全国に分布する追分節の発祥の地でもあり、避暑地・観光地として現在も健在です。

御代田町は、某ベアリングメーカー本社や某時計メーカー関連会社があり、産業に関しては強い町です。また、古刹真業寺に伝わる「甲賀三郎伝説」をモチーフにした竜神祭りも有名ですが、心霊スポットでもある軽井沢大橋やゴルフファンには名門のゴルフコースなどもあります。

立科町は、白樺湖・蓼科山、白樺高原など美しい白樺林で観光客に親しまれています。中山道の茂田井・菅田宿は街道筋が県道にならなかつたため、良い雰囲気の街並みが残っており、酒屋さんが美術館・書道展示・郷土資料館として一般開放をしています。笠取り峠へ登る道には松並木が保存され、五輪久保のリンゴは「ふじ」ですが、他地域産より歯ごたえがあり、

◀御代田町 激走の龍神祭り



地域の紹介

酸味があるブランドリンゴとして親しまれています。今後とも、シルバー事業の原点を踏まえつつ、地域ニーズや高齢者の就業ニーズに的確に対応し、自治体や他の関係機関とも連携・協働しながら、地域から信頼され、親しまれるセンターとして日々努力してまいります。

◀立科町 白樺高原花火大会



▲軽井沢町 矢ヶ崎公園花火大会





▲ 御嶽山とそば畑(木曾町開田高原)

〒397-0001

木曾郡木曾町福島5808-3(木曾郡民会館内)

TEL 0264-23-3755

FAX 0264-24-2815

- ・理事長 横沢 淳一
- ・専務理事 山田 誠吾
- ・事務局長
- ・法人設立 平成6年6月1日
- ・構成町村 木曾町、上松町、南木曾町、木祖村、王滝村、大桑村
- ・会員数 362人(平成28年3月末現在)
- ・契約金額 165,140千円(平成27年度実績)

シルバーだより



KISO

当センターは、長野県の西南部に位置し、木曾郡全域を事業区域としています。木曾郡は、面積1,469km²(四国香川県とほぼ同じ)の広大な地域の中に、人口は僅か2万8千人余です。土地の大部分は山林のため、大きな事業所も無く、小規模な事業所が点在しています。

木曾路はすべて山の中 山を守り 山に生きる

木曾郡全域が、今年4月に文化庁の「日本遺産」として、全国19か所の一つとして認定されました。木曾路街道文化だけでなく、木曾檜や木曾馬、木曾漆器などの伝統工芸品、更には各地の祭りや木曾

地域の概要

踊りなど、昔も今も人々の暮らしの中に根ざし受け継がれてきました。この歴史的価値観に加えて、地域の風土に根ざし世代を超えて受け継がれている伝承・風習を踏まえたストーリー性が評価されての認定であります。

日本遺産を構成する多くの歴史的建物や景勝地などの環境整備や施設管理は、今までも当センターにとっては大きなウェイトを占めていましたが、この認定を機に各町村とも今後さらに環境整備に力を入れることが予想されるため、シルバーへの受注増を期待しています。

独自事業 門松制作・販売

小規模なセンターとして、独自事業と言えるものは「正月用門松制作」唯一です。



▲ 今年も豊作?きのこまつり
(木曾町日義)



▲ 御岳ロープウェイ
(木曾町三岳)

平成18年に、数人の会員が見よう見まねで始めてから、丁度10年になります。今では、携わる会員の代も変わりましたが、飾付に工夫を凝らしたり、ミニ門松にも挑戦するなど注文基数も大幅に増え、年の瀬の大きな事業となっています。現在は注文先が一部地域で、まだまだ販

秋の木曾路

▼ 紅葉の中を走る森林鉄道
(上松町赤沢自然休養林)



▼ 文化文政風俗絵巻之行列
(南木曾町妻籠宿)



売の余地がありますが、作業場が手狭となっていることから、今後に向け広い作業場を探しています。今後、独自事業として、他のセンターで多く行われている遊休農地を利用した野菜作りに、会員の要望も高まっていることから、取り組んでいく計画です。

長野県シルバー人材センターの概要

注:()は、労働者派遣事業を内書

年度	年度末会員数(人)			受注件数 (件)	契約金額 (百万円)				1人当りの平均収入 (円)
	計	男	女		計	配分金	材料費等	事務費	
平成 23 年度	(67)	(51)	(16)	(21)	(19)	(15)	294	(4)	448,497
	18,715	12,784	5,931	97,173	9,265	8,393		578	
平成 24 年度	(48)	(43)	(5)	(11)	(15)	(12)	286	(3)	442,573
	18,101	12,403	5,698	97,845	8,853	8,011		556	
平成 25 年度	(39)	(32)	(7)	(6)	(9)	(8)	303	(1)	449,686
	17,757	12,231	5,526	98,592	8,868	7,985		580	
平成 26 年度	(18)	(10)	(8)	(14)	(6)	(5)	333	(1)	466,528
	17,606	12,097	5,509	101,341	9,197	8,214		650	
平成 27 年度	(597)	(464)	(133)	(256)	(226)	(182)	331	(44)	468,537
	17,481	11,928	5,553	102,073	9,196	8,191		674	

公共・民間別契約状況

注:()は、労働者派遣事業を内書

年度	計	契約状況 (百万円)						
		公共		一般企業等		個人・家庭		
		契約金額	構成比(%)	契約金額	構成比(%)	契約金額	構成比(%)	
平成 23 年度	(19)	9,265	2,612	28.2	5,273	56.9	1,380	14.9
平成 24 年度	(15)	8,853	2,355	26.6	5,088	57.5	1,410	15.9
平成 25 年度	(9)	8,868	2,339	26.4	5,083	57.3	1,446	16.3
平成 26 年度	(6)	9,197	2,382	25.9	5,292	57.5	1,523	16.6
平成 27 年度	(226)	9,196	(80)	25.6	5,306	57.7	1,539	16.7

長野県シルバー人材センターの概要

平成27年度末のシルバー会員は、継続雇用制度等の影響から、1万7千481人と平成21年度の1万9千66人をピークに6年連続の減少となっています。受注件数は、5年間で9千件ほど増加していますが、契約金額は受注件数の伸びにも関わらず、91億96百万円と横ばい状況です。

公共・民間別契約状況では、公共が減少する反面、一般企業、個人・家庭の受注が増加しており、特に個人・家庭では

福祉・家事援助サービス事業状況

年度	受注件数 (件)	就業延人員(人日)				契約金額 (百万円)	
		計	公共	一般企業等	個人・家庭	内配分金	
平成 23 年度	2,435	127,858	24,486	83,583	19,789	430	400
平成 24 年度	2,590	119,594	23,921	77,277	18,396	384	356
平成 25 年度	2,784	124,692	24,096	82,198	18,398	424	392
平成 26 年度	2,366	118,062	20,614	83,161	14,287	413	380
平成 27 年度	2,065	91,671	18,854	60,413	12,404	306	280

僅かずつではありますが、9年連続の増加となっています。

福祉・家事援助サービス事業では、受注件数が平成25年度をピークに減少に転じています。また就業延人員は一般企業等で、シルバー派遣への切替等により、平成27年度は、約2万3千件の減少となっています。

なお、福祉・家事援助サービス事業については、介護予防・日常生活支援総合事業の移行期間が、平成29年4月までとなつていことから、市町村からの受託等により今後の増加が期待されます。

休日の過ごし方は人により様々ですが、「足腰を鍛えようと40年ぶりに登山に挑戦した。」という記事もありました。

県内の拠点センターでは、互助会のサークル活動により会員の親睦と健康管理に努めているという話もお聞きします。

会員の減少により会員の高齢化が進み、仕事の受注にも影響しているという話もありますが、こういう時こそ元気で働くことのできる健康づくりが大事ではないでしょうか。

皆さんも、「山の日」の制定を機会に、もう一度健康づくりについて考えてみてはいかがでしょうか。

この結果、1年間に登山やハイキングに出かけたことがある人の割合は、当時の年齢で男性が65〜69歳が、13.2%と最も高く、次いで60〜64歳が12.7%。女性では60〜64歳が12.0%、次いで55〜59歳の11.0%で、このうち男女とも12%以上となつている60〜64歳は、いわゆる「団塊の世代」を含む年齢層ということでした。

15年前の平成8年調査では、45〜54歳で登山等に出かけた人の割合が高く、これが平成23年調査の60〜69歳に当たることから、この年代に生まれた人は、若いうちから山に親しんでいた人が多いとみられるとされています。

8月12日の地方紙に、今年から8月11日が「山の日」となったことを記念し、様々なイベントが開かれた記事が載っていました。この中に、「登山・ハイキングは高齢者に人気」という記事がありました。

これは、総務省が「山の日」が国民の祝日になったことに合わせ、直近の平成23年の社会生活基本調査から関係する項目を分析したという。

編集だより